

もくぞうふどうみょうおうりつぞう  
「木造不動明王立像」

- 指 定 千曲市指定有形文化財（彫刻） 平成4年12月24日
- 所 在 地 千曲市大字森字大峯 2650-1 観龍寺
- 所 有 者 観龍寺
- 概 要 法 量：像高 105.5cm 髮際下 97.2cm 顎頭丁 18.0cm  
面長 13.0cm 面幅 12.0cm 面奥 15.0cm  
耳張 14.5cm 肩張 17.5cm 腰張 23.0cm  
裾張 24.5cm 胸厚 17.8cm 腹厚 19.0cm  
足開(外) 27.0cm 足開(内) 30.5cm
- 時 代 15世紀（室町時代）
- そ の 他 平成12年9月15日盗難、現在所在不明

本不動明王は、頭部は頂蓮<sup>ちやうれん</sup>を戴き、髪は簡略化された巻髪<sup>まきがみ</sup>で弁髪<sup>べんぱつ</sup>をもちません。（後補修の際に削り取られた可能性が強い）面部は彫眼<sup>しんもく</sup>で瞋目<sup>しんもく</sup>。口もとは上下牙。頸部三道。条帛<sup>じやうはく</sup>・二段折り返しの腰布<sup>こしぬい</sup>・裳<sup>ひじ</sup>をつけています。左腕を曲げ、掌を上にして羂索<sup>けんさく</sup>を握り、右腕は臂を張り宝剣<sup>ほうけん</sup>を握っています。脚部は右脚に重心を置き腰部を張り出し、左脚はやや斜前に踏み出し、両脚を開いて岩座上<sup>いわざ</sup>に立っています。彩色は当初全面に施されていましたが、現状では身部全体で剥落部が多く素地を見せています。なお背面裳臂部下<sup>ひじ</sup>・両脚部、足首先は後の補修です。また光背<sup>かえん</sup>・岩座いずれも後補修ですが、火焰<sup>かえん</sup>の光背は現代に入ってからのもものとみられます。

本像は毘沙門天像<sup>びしゃもんてんぞう</sup>（市指定文化財）とともに、千手観音坐像<sup>せんじゆかんのんざぞう</sup>（平安時代後期）の脇侍<sup>わきじ</sup>として室町時代に安置されたもので、年代的にかなり開きが見られるところから、千手観音は最初独尊像で、後に不動・毘沙門の二像の脇侍としたものかどうかその経過は分かりません。



◎観龍寺では本像を探しています。お気づきのことがありましたら、千曲市教育委員会までご連絡ください。